

新聞OB 「九条の会」

2026年8月24日 第163号

【部内資料】

〒113-東京都文京区本郷2丁目17番17号 井門ビル6F
0032 新聞労連気付 TEL 03(5842)2201 FAX 03(5842)2250
(郵便振替口座)新聞OB「九条の会」00130-0-334661

日本国憲法の危機！ 第二章 戦争の放棄

第九章①日本国民は、正義

と秩序を基調とする国際
平和を誠実に希求し、国
権の発動たる戦争と、武
力による威嚇又は武力の
行使は、国際紛争を解決
する手段としては、これ
を永久に放棄する。
②前項の目的を達するた
め、陸海空軍その他の戦
力は、これを保持しない。
国の交戦権は、これを認
めない。

九条の会2026・8・7付、第480号から採録。

夏から秋に向け、

高市政権による憲法9条改悪に

反対する請願署名を広げよう！

221特別国会において、高市政権は、自民・維新の「数の力」と国民民主や参政党など補完政党の「協力」を使って、次々悪法を強行しました。これら悪法は、治安・スパイ組織の一元化と強大化を図る国家情報局の設置を決めた「国家情報会議設置法」にせよ、「国旗 損壊処罰法」にせよ、いずれも、政府の進める改憲、軍拡に反対し反戦を訴える市民運動や市民の監視・取り締まりを狙った「戦争準備」の体制づくりの一環です。

また、高市政権は、戦争準備の本命である改憲についても、衆議院における改憲派議席の寡占を背景に、衆参両院の憲法審査会において、発議へ向けて起草委員会の設置を目指しましたが、この企ては、市民運動の反対と監視の活動、また改憲派内での方針の不一致もあって、実現には至りませんでした。

しかし、高市首相が4月の自民党大会で明言した、来年春頃には「発議の目処をつける」という「公約」強行のためには、今年秋の臨時国会が大きな山場となることは間違いありません。

高市政権の推し進める戦争準備と改憲の策動に反対するために、市民の声をあげていきましょう。「憲法9条改悪に反対する請願署名」を手に市民との対話をすすめ、改憲許すな、の声を広げましょう。各地、各分野で、署名運動の取り組みが進んでいます。

この「九条の会ニュース」も本号を皮切りに、全国各地で署名に取り組んでいる9条の会の活動を重視して、その取り組み報告を掲載することにしました。各地の9条の会から、署名や改憲反対の集会の取り組みのレポートをぜひお寄せください。

酷暑お見舞い申し上げます。



事務局長

山口 文昭

連日の猛暑が続いておりますが、いかがお過ごしでしょうか。厳しい暑さの折お変わりございませんか。

私も数年前、熱中症で意識を失い救急搬送された経験があり大きな事は言えません。猛暑日の連続です。どうぞ無理をなさらず元気で過ごしてください。

さて、先の大戦・被爆から81年の暑い夏を迎えました。高市総理として初めて広島、長崎に立ちました。

しかし非核三原則の曖昧さ、核兵器廃絶への姿勢、被爆者の声を聴こうとしない態度、随一の被爆国として核兵器廃絶への姿勢はこれまでの歴代総理と程遠い冷酷さに怒りを覚えます。被爆者の苦しみは、核廃絶の日まで本

当の意味での「終わり」はありません。

災害列島日本で熊本は再び大地震に見舞われました。旧態依然とした救援対策、エアコン整備の遅れ、避難所の劣悪さは何度災害を繰り返したことが。酷暑のなか関連死が増大し国民を路頭に迷わせています。不意に深刻な課題が突き付けられたわけでもなく、熊本だけの問題では片付けられません。

最大の問題は国民に寄り添わず、声を聞かず、耳を貸そうとしない時代錯誤の総理の姿勢です。

ひたすら時代を遡る姿は異様です。憲法改正を目論み軍事拡大へ邁進し戦争への道をひた走る高市自民党暴走(独裁)政権の危うさ恐ろしさを感じます。いつか来た道に戻らせない決意を新たに、何としても引導を渡し終わりに追い込みましょう。暑さをふき飛ばしこの夏を元気に乗り切りましょう。

【写真は蔵市での諸行動です】

核廃絶、災害などに立ち向かう！



論考

高市強権政治の下で迎えた 「終戦の日」と新聞

田原 恒男
(元読売)

まともな国会審議を避け「数の力」を振りかざす強引な国会運営に終始した高市政権。内閣支持率が急落しても「反省することは何もない」と開き直る厚顔無恥な高市政権をまえに81回目を迎えた「終戦の日」に新聞は何を訴えたか。

高市政権の評価

暴走する高市政権を新聞各紙はどう受け止めているか。状況に流れ「歴史顧みぬ愚」を繰り返している。状況に流れ「歴史顧みぬ愚」を繰り返している。状況に流れ「歴史顧みぬ愚」を繰り返している。

『不戦の誓い』が近ごろ揺らいでいないか、国際情勢が厳しいという『現実』を言い訳に平和国家の理念を軽んじてはいまいか(東京)。

現実のきな臭さが増す一方で、戦争を経験した世代は去っていく現状の中で「平和の価値を再認識したうえで、理想と現実の接点を探る議論が求められている」(朝日)と

批判する。

その一方、皇室典範改正、議員定数削減法案で、その強引さを厳しく批判した読売は、「高市首相は米国、韓国との関係を改善したと評価」。その上、中露朝が連携を強化し日本への圧力を強めていると脅威を煽り「国民の生命、財産を守るためには防衛力の強化が欠かせない」と大軍拡・民主主義否定の強権政治を擁護。

この姿勢は、安保三文書の改訂に向けた政府の有識者会議に読売の最高幹部の参加と無縁ではない。

新聞の現状 認識に危惧

高市政権は危険な本質を増々露わにしている。終戦の日となった15日、日本の侵略戦争推進の支柱となった靖国神社に閣僚や自民党幹部が続々と参拝。「高市首相は、全国戦没者追



8月15日の各紙

悼式典の式辞で戦争の反省に触れずに『戦争の惨禍を二度と繰り返させない』と発言。これまでの『繰り返させない』でなく『繰り返させない』と述べた」と指摘(朝日)。

この高市政権の姿勢は日本の侵略戦争を肯定、戦後日本の原点である平和主義と平和憲法を覆す歪んだ歴史観を世界に発信したものである。その上、追悼式典の前に車

から降りて「日本武道館の駐車場から500メートルほど離れた靖国神社の方へ2拝2拍手1拝した」(天声人語17日付)と云う。

新たな戦前にするのかと危惧される動きを強め、日米同盟を軸にした「戦争国家づくり」を許すのか、民主政治を取り戻すのか厳しく問われる重大な岐路のもとで迎えた8月15日。新聞各紙の情勢認識の弱さを危惧せざるを得ない。

新聞の再生

最近では強権政治のもとで「平和主義の重要性は変わらないが、それだけ唱えていても国の安全は守れない」「自衛力強化の外交が重要」など大軍拡を容認する主張が圧倒的に多い。この中でこれまでの報道の延長では対抗できない。

東海中学・高校が開催した「第49回サタデー・プログラム」の石破、枝野、志位三氏による講演とてい談(ユーチューブで公開)のような発想の転換が必要ではないか。そんなことを痛感した8月であった。

お願いです

2026年の夏に想う「ひと言」をお願いします。
メールからも y.fumaki8122@docomo.ne.jp
締め切り日 9月15日。お送りください。

3350004

藤市中央2-41-5
山口 文昭 行

名前 出生
住所 〒
電話 ()

憲法9条改憲に反対する請願署名を手にした人たちに

みなさんの10の質問に青い鳥 Bluebirdが

お答えします

署名活動はこれからダウンロードしてください。署名先も記載されています。署名した署名は必ず郵送でこちらに送ってください。

https://www.kyodo-center.jp/wp-content/uploads/2026/04/20260401.pdf

署名活動はこれからダウンロードしてください。署名先も記載されています。署名した署名は必ず郵送でこちらに送ってください。

署名活動はこれからダウンロードしてください。署名先も記載されています。署名した署名は必ず郵送でこちらに送ってください。

会員・読者のみなさん、同封のハガキに日頃の思いを書いてお送りください。「この夏に想う」なんでも結構です。お願いいたします。

会員・読者のみなさん、同封しました。「10の質問にお答えします」をご活用ください。署名活動に對話に大変便利です。「九条の会 HP から」